

令和4年度 学校自己評価表(最終評価)

学校運営計画			
学校運営方針	授業改善と学習意欲向上の取組を通じて、生徒の学力伸長を図り、「進学も就職も、生徒の希望が確実にかなって自己実現できる学校」として支援するとともに、部活動や地域連携の活動等により、活気にあふれた学校づくりを進める。		
昨年度の成果と課題	今年度の重点目標	具体的目標	
<p>&lt;成果&gt;</p> <p>①個別指導により、進学と就職の希望に沿った支援ができた。</p> <p>②吉田高校サポート協議会と連携し、模擬面接にかかわる地域の協力が進んだ。</p> <p>③商業検定や実用英語検定は、個別指導により確実に合格者を出すことができた。</p> <p>④いじめ認知案件について、速やかに情報を共有し組織的に対応することができた。</p> <p>⑤休業期間中にICTを活用した課題配付や回収、また、通常授業中にもICTを活用した授業展開を行うことができた。</p> <p>&lt;課題&gt;</p> <p>①家庭学習の習慣を定着させ、確実な基礎学力を身に付けさせる。</p> <p>②2年生のインターンシップ希望者を増やす。</p> <p>③部活動加入率を増加させ、運動部、文化部の活動を活性化させる。</p> <p>④生徒の情報を共有し、保護者との連携を図る。</p> <p>⑤地域連携を深め、授業に取り入れる。</p> <p>⑥教職員の校内研修の充実。</p> <p>⑦転出、退学者の減少に努める。</p> <p>⑧教職員のICTIに関する意識、技能の差が著しいために、オンラインでの配信を行うことがまだ難しい。</p>	育てたい生徒像を踏まえた教育課程の改訂と生徒の学ぶ意欲を高める学習指導の研究	生徒数の減少にともない、職員数も減少する中でも持続可能な教育課程の見直しをすすめる。	
	生徒指導における一貫した指導体制の推進	積極的なICTの活用などにより、主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善を行う。	
	生徒の進路実現に向けた組織的取組の確立	基本的な生活習慣を身に付け、いじめ防止基本方針に沿って、適切な対応をする。	
	生徒会活動や部活動の奨励および活性化	生徒の指導や理解に関する校内研修の充実を図る。	
	生徒の進路実現に向けた組織的取組の確立	インターンシップや総合探究活動をとらして、地元へ貢献する意識を高める。	
	生徒会活動や部活動の奨励および活性化	個別の進路相談を充実させ、生徒の進路実現を支援する。	
		生徒会活動や部活動への参加を促す。	
		学校行事の活性化を促し、学校生活への満足度を高める。	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価
教務	円滑な学校運営に努める。	教育課程を実践する上で効果的な年間行事計画や時間割の作成に努めるとともに、新教育課程へスムーズに移行できるよう、諸課題に取り組む。	A
	地域や保護者との連携を図り、開かれた学校作りに努める。	行事を含めた様々な教育活動が円滑に実施できるように、他の分掌や学年との連携を図りながら、単位履修に必要な授業時数を確保する。	A
	図書・視聴覚の環境整備に努める。	様々な情報発信を通じて保護者や地域との連携を深めるとともに、PTA専門部を中心に、保護者や地域の力を積極的に活用することで、教育活動の充実を図る。	A
生徒指導	目に見える指導を実践し、その情報を発信する。	中学生体験入学の参加者アンケートにおける評価「良かった」が8割以上をめざす。	B
		60周年記念事業委員会と連携しながら60周年記念式典の円滑な実施をめざす。	A
		教育活動を行う上で必要な図書・視聴覚教材や情報機材などを適切に管理し利用しやすい環境整備を行うとともに、ICT教育の推進をサポートする。	A
		図書館の適切で有効な運営に努めるとともに、様々な情報発信を通じて、図書の有効活用を促す。	A
	立哨指導や巡回指導を行い、登下校の指導や遅刻の防止、挨拶の励行、望ましい身だしなみの定着を図る。		A
	服装頭髪やアルバイト・免許等について学校の指導方針の周知徹底を図る。		A
	「生徒指導通信」を年4回程度発行し生徒指導の方針への理解を促す。		A
	携帯電話の校内での使用制限について、徹底するよう指導する。		B
	ルール遵守の意識と責任感の養成を図る。	薬物乱用防止講話を実施して、薬物汚染の怖さへの理解を深めさせる。	A
		免許保有者のバイク実技講習会への参加率を100%にする。	A
		服装頭髪検査を年間5回実施するとともに、継続的に指導する。	A

評価項目	具体的目標			
保健指導	保健管理と環境の清潔維持を図る。	健康診断結果の活用や健康相談活動を通し、疾病治療と規則正しい生活習慣の確立を目指すとともに、生徒の抱える問題に対して個に応じた指導にあたる。	A	B
		校舎内外の清掃や生活環境整備を徹底し、学習と生活両面の環境維持に努めるとともに、感染症の蔓延を防ぐ。	B	
生徒会	部活動及び生徒会活動・学校行事の活性化を促し、学校生活への満足度を高める。	体育祭と文化祭の内容充実に取り組みせ、生徒の参加意識の向上を図る。また、地域行事への参加により、人との触れあいや社会貢献の態度を育てる。	A	B
		全校集会等で各部活動の紹介・激励を積極的に行い、部活動への参加を促し、部室整備など部活動が実施しやすい環境作りを進める。	B	
進路指導	キャリア教育を推進し、学習意欲の向上につなげる。	『進路のしおり』を作成し、進路指導に有効活用を図る。	A	A
		進路ガイダンスを実施するとともに、内容を厳選し充実を図る。	A	
		進路情報室の資料を一層充実させ、有効な利用方法の指導に努める。	B	
	個別の進路相談を充実させ、生徒が第一希望とする進路の実現を支援する。	進学補習・模試受験指導・推薦入試指導などを計画的に実施する。	A	
		進路・学年・保護者間で緊密な連携を保ちながら進路指導を行う。	A	
		企業研究・職場見学等を充実させ、就職希望者全員の進路実現を目指すとともに、一次合格率60%の内定を目指す。	A	
学年	基本的な生活習慣と規範意識を身に付ける。自らの進路目標をもち、その実現に向けて努力する。	(1年) 基本的な生活習慣の確立と進路を見据えた基礎学力の定着を目指す。	B	B
		(2年) 基本的な生活習慣および学習習慣を確立させ、自己の進路に関心を持ち、進路実現に向けての意識を高める。	B	
		(3年) 出席率の向上(98%以上)を図り、社会性を身につけさせる。学習習慣を確立させる。生徒全員の卒業並びに進路実現を目指す。	B	
道徳・人権教育	様々な体験や思索の機会をととして、人間としての在り方生き方を主体的に探求し、豊かな自己形成ができるようにする。他者を尊重する人権感覚を身に付ける。	(道徳) 教科・科目において体験的な学習を重視するほか、就業体験やボランティア活動などに参加しやすい学校づくりを行う。	A	A
		(人権) 生徒及び教職員対象の人権教育、同和教育研修会を全校対象1回実施するほか、学年ごとに1回以上実施する。	A	
総合学習探究学習	地域・社会・文化に関する総合的な学習及び自己の在り方生き方について考察する活動を通じて、自己の進路を主体的に探究し、地域・社会が抱える課題について解決策を考察するための資質・能力を育成する。	(1年) 校外研修や講演会などを行い、地域や企業の課題を発見し、自分(たち)にできることを主体的に探究する。	B	B
		(2年) 地域社会の課題をみつけ、課題解決のために自分たちにできることを考え、実践する。	B	
		(3年) 小論文学習や面接練習、出願書類作成練習を繰り返し、全生徒の進路実現を目指す。	A	
国語	国語を適切に理解し表現する能力を育成するとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重して、その向上を図る態度を育てる。	年間指導計画に基づく定期的な漢字テストの実施や、長期休業課題などを通して家庭学習の習慣を定着させる。また学習活動への主体的な取り組みを促すために、プリント類を工夫するなどして、分かりやすい授業の実践を目指す。	B	B
		漢字検定の受検や模擬試験、各種補講等への積極的な参加を促すことで、各自が高い目標を持って学習に取り組む意欲を育てる。	A	
地歴公民	地理歴史科：日本と世界の基本的な知識を習得させ、地理的・歴史的思考力を養う。公民科：人権・地球環境問題・グローバル経済・持続可能な開発など日本と世界の今日の課題を学ばせ、主権者としての知識を身につけさせる。	生徒に記憶させるだけでなく、理解をさせるように、わかりやすく丁寧な授業実践をめざす。	A	A
		ノートやワークシートなどの提出率を9割以上にする。	A	
数学	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高める。	丁寧な授業を心がける。	B	B
		課題提出90パーセント以上を目指す。	B	
理科	自然の事物・現象についての理解を深め、観察、実験を通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。	自然と人間生活を関連付けながら、基本的な概念や原理・法則を理解する。	B	B
		観察、実験などを行い科学的に探究する力を養い、科学への興味・関心を高める。プリントなどの課題を全員が提出するように粘り強く指導していく。	B	
保健体育	幅広いスポーツの実践や理論の学習を通して、より高い技能及び知識の習得をはかる。また、健康・安全に関する基礎知識を学ぶ。	運動の楽しさを理解させ、生涯スポーツに取り組む姿勢を育成する。	B	B
		社会生活における健康・安全に関する基礎知識を習得させる。	B	
芸術	芸術の鑑賞、表現、創作活動をととして、豊かな心や創造力を育成する。	表現、創作活動を行い、互いにその成果を認め合うよう指導する。	A	A
			A	
外国語(英語)	基礎的な語彙力や文法力を習得し、英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	基礎学力の定着を目指し、ていねいにわかりやすく指導する。	A	A
		課題提出90パーセント以上を目指す。	A	
家庭	社会人及び家庭人として必要な基礎的教養を習得させ、豊かな人間性を育成する。	衣食住、家族・保育、消費生活と環境など家庭生活についての関心と理解を深めさせ、実験・実習をできるだけ取り入れ実践的能力を育成する。	B	B
		生活文化の継承と創造に必要な基礎的技術を身に付けさせる。被服・食物調理・保育技術検定4級の合格率80%をめざす。	B	
商業・情報	商業の各分野に関する基礎的な知識・技能を習得させ、職業人として必要な心構えを育成する。また、資格を活かして商業系大学への進学及び就職を目指す。	学習到達度をはかるために各種検定を受検させ、商業に関する基礎的な知識・技能を習得させる。検定合格率が100%になるよう指導する。	B	B
		ワープロ・表計算・プレゼンテーション・ネットワーク管理などの実務に必要なソフトの活用能力を育成する。	A	
		社会人・職業人として要求される知識・能力・態度を身に付けさせる。	B	
成果	総合探究委員会を立ち上げ、来年度以降の計画等を作成した。まだ、足りていない部分もあるので引き続き委員会で検討を重ねていく。 部活動の加入率は維持できているが、活発な活動を行っている部活は限られてしまう。生徒の実情や学校規模に合った部活動のあり方を検討していく必要がある。 ICTの活用は進んでいる。授業のオンライン配信等も全ての教科でできるようになった。授業における活用についてはまだ個人間で差がある。 生徒指導に関する職員研修を複数回実施することができた。			総合評価  A